

●春日部市民文化講座（第20回）

◆日 時：2016年5月11日(水) 10時（ぽぼら春日部4階会議室）～11時

◆テ マ：講演「観光ボランティアが語る春日部！」

講師：篠 信子さん（春日部観光ボランティアの会）

◆ゲスト紹介：《前掲と同じ》

■粕壁宿を巡って

皆さん、おはようございます。マイクがないとガイドの雰囲気が出ないので、本日はマイクを使わせていただきます。私たち観光ボランティアの会も11年を迎え、大変忙しくなりました。昨日と今日、春日部市の歴史や魅力を勉強されていらっしゃる“ふれあい大学”の皆様75名を「八幡神社を巡るコース」にご案内いたします。皆様にも、春日部市のさまざまな魅力をご紹介したいと思いますので、機会がございましたらご案内させていただければと思っています。

■ボランティア活動とは

皆さんはボランティアの活動を知っていますか。ボランティア活動というのは、**自発的に見返りを求めずに行う活動**をいいます。私たちの会は23名いますが、皆さんもお客様から元気をもらえるからと喜んで頑張ってくれています。何故ボランティアが必要なのかというと、街の人たちとお客様とを繋ぐ役割を務めることがボランティアの人たちの役割だと思っています。私たちにとっても、ボランティア活動を行うことで自分発見ができたり、楽しみながら勉強して自分自身を向上させながら、自分のできることで周りの人や社会を豊にするお手伝いができるというのがボランティアにとって大切なことなのです。私たちの観光ボランティアの会の理念は、自分のできること、限られた時間を共有しあって協働していくことです。お客様の喜びが自分たちの喜びであるというのも私たちの考えです。私たちにとって大切なことは、地域の人たちとの繋がりであります。大先輩からの言葉に「父母に呼ばれてこの世に客に来て心残さず帰る故郷」というものがありますが、せっかく生まれて来た世ですので、何か皆様の役に立つことができればと思います。この観光ガイドをさせていただいています。

■春日部の地域資源

皆様もご存じのように東口は、昔からの建物や宿場町としての面影が遺る通りなど文化の街、歴史の街です。その他、彫刻やシャッターアートなどもあり、皆様にもゆっくりと歩いて楽しんでもらいたいです。一方の西口ですが、市役所の裏には市立医療センターが7月にオープンします。1.1キロに亘って藤が咲く藤通りがあります。粕壁宿の名残としては、歴史のある神社、仏閣などがあり大きな地域資源です。また、桐箆筒、桐小箱、押し絵羽子板、麦わら帽子などの伝統的産業も地域資源です。さらに、伝統的な祭りの大凧揚げとともに、庄和地区には首都

圏外郭放水路と龍Q館があります。

■日光道中、粕壁宿の今昔を巡る

ここからは資料を基にしてガイドを進めてまいります。お配りした「粕壁宿めぐり」をご覧ください。①番の「八坂神社」から⑧番の「新町橋・上喜蔵河岸跡」まで番号がありますが、この番号の所に案内板が設置されました。八坂神社から新町橋までが約1.1キロあるのですが、ここが粕壁宿です。道幅は約9メートルで、両側には商店、旅籠、お寺などがありました。①番：八坂神社。②番：東陽寺と源徳寺。③番：脇本陣跡。④番：本陣跡。⑤番：ミセと蔵。⑥番：問屋場跡。⑦番：高札場跡・浜島家住宅土蔵。⑧番：新町橋・河岸場跡。今日は時間が無いので説明をはしりましたが、案内板には細かく史実



が書かれていますので、どうぞぜひ一度歩いて歴史を見てください。また、粕壁宿には有名な彫刻家が作製した彫刻、シャッターアートや公園橋のライトアップ、美味しい食事処もあります。粕壁宿にはたくさんの資源があり、今日は全部を説明できませんでしたが、一度、皆様を私たちのガイドでご案内させていただきたいと思っています。実際に足を運んでいただき、一か所一かで丁寧に説明をさせていただきたいと思っていますので、どうぞ「春日部観光ボランティアの会」にご用命ください。皆様のおもてなしをさせていただきたいと思っています。本日は誠にありがとうございました。

私も何度も歩いている粕壁宿ですが、観光ボランティアガイドの方々の説明を聞いていると新たな発見があります。

